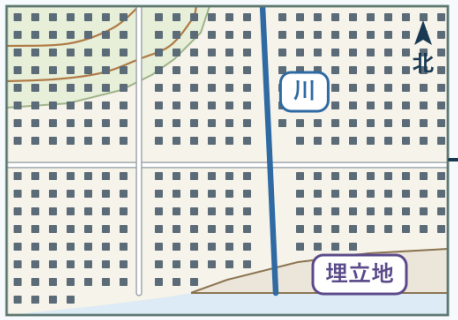
見えなくなった昔の地形と災害（旧河道・盛土・埋立地）

今は住宅地になっている土地の昔の姿を調べると、どんな災害の起こりやすさが分かるか

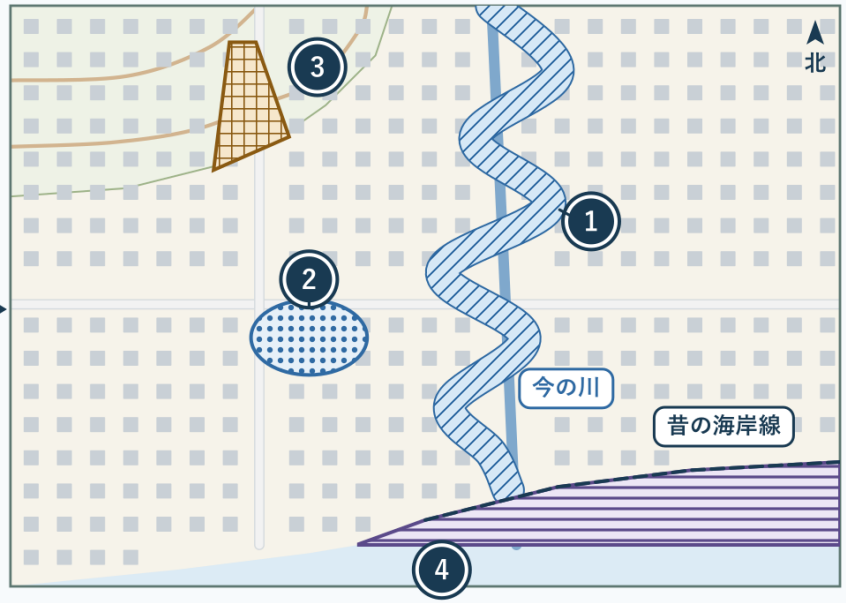
昔の地図（架空の町）



今の地図（同じ範囲）



重ねた図：昔の地形を、今の地図に重ねる



地図の記号（模式）

- 建物
- 田
- 川
- 池・沼
- 等高線
- 道路

地図記号は一般的な形の模式

1 旧河道（昔の川の跡）

周りより少し低く、浸水が長引く
地盤が軟弱で、液状化しやすい

2 池や沼を埋めた土地

地盤が軟弱で、液状化しやすい
低いと、水がたまりやすい

3 谷を埋めた盛土

大雨や地震のとき、
地盤が崩れることがある

4 海の埋立地

地震のとき液状化しやすい
高さが低いと浸水のおそれ

読み取りの手順

1 昔の地形を探す

古い地形図や空中写真で、川の
流れ・池や沼・谷・海岸線を見る

2 今の地図と重ねる

同じ範囲・同じ縮尺にそろえ、
土地が変わった所に印を付ける

3 土地の成り立ちを確かめる

土地条件図や治水地形分類図で、
盛土地・埋立地などを確かめる

4 起こりやすい災害を考える

ハザードマップと比べ、
備えや避難の仕方を考える

実際の土地の様子は、自治体の
ハザードマップなどで確かめる。

※ 架空の町の模式図。地形・川・海岸線の形と、建物や田の並びは例で、実際の地図を写したものではない。